

事例名称： 前橋市 有限会社 齋藤農園

混住化地域で環境に配慮した黒豚生産と地域に根ざした養豚経営

都市近郊で養豚経営の定着に挑戦した改善方策の実践

【地方審査委員会において評価されたポイント】

当養豚経営は、前橋市中心部から7km東方の住宅地域で、昭和39年から順次飼育頭数を拡大して、平成8年より養豚一貫経営を行ってきた経営体である。当経営体は、典型的な都市化の中で、地域に根ざした経営を実現している農家で、その評価できる内容は以下の通りである。

1. 都市化の中での養豚経営の確立

地域資源として稲わら、麦藁の確保による家畜敷き料、堆肥化を通し、有機質の提供に惜しみなく協力すると共に、環境対策では畜産イメージを払拭する処理方式を採用して、地域と融和した養豚経営を樹立している。

また、当該地域では規模拡大には限界があり、付加価値を高める肉豚の銘柄化を図り、契約販売を行うことで、価格安定を試みている。

2. 仲間と共に築いた銘柄豚の生産

平成8年にパークシャー種導入以来、平成12年には全頭を本品種に変え、黒豚の生産に着手し、銘柄豚黒豚を供給した。この過程には、経営主の指導力によってとんくろー研究会を設立、県産黒豚の普及を開始した。

特に、トレースバックの取り組みとして品種証明をと畜場、加工施設、販売店までついていくシステムを構築して、加工・流通・消費者にわかりやすい豚肉の供給に努力している点は評価できる。

以上のような取り組みは、都市化の中での経営という条件下で、発想と試行錯誤の繰り返しで定着した経営改善で、養豚経営の安定的維持発展を見込める事例として評価したものである。

## ○経営・生産活動の内容

### 1. 都市近郊で養豚経営の確立

#### (1) 地域条件を活かした養豚経営

自作地の水田 135 a、畑 90 a は米麦を中心とした耕種部門と共に、養豚一貫経営を取り入れ、資源の経営内循環と地域の有機質提供に取り組み、都市化の中で地域に融和した養豚経営を実践している模範的な事例である。

#### (2) 畜産環境対策

混住化地域であることから、環境対策には意を注ぐとともに、地域で活用できる堆肥の製造に心がけ、コンポスト方式、堆肥舎方式を取り入れ、有機質資源は自家消費、地域の野菜作に提供し、堆肥の不足をきたす程で、地域における養豚の存在感を明確にしている。

一方、尿污水处理には、回分式処理施設を設置し、環境基準をクリアした処理方式で河川放流を行っている。

#### (3) 銘柄豚肉の生産による付加価値の向上

当該地域では規模拡大によるスケールメリットを求めることは困難と見極め、経営者の長い経験から適正規模による経営の安定的な存続、収益性の向上策として、付加価値のあるパークシャー種（黒豚）を全頭飼育に切り替え、契約販売事業に取り組んだ、安全で美味しい「黒豚」の安定的な生産、普及を目指している。

### 2. 仲間と共に築いた上州銘柄豚「黒豚」

#### (1) 「とんくろー研究会」を設立

平成 8 年パークシャー種の導入以来、平成 12 年には全頭をパークシャー種に切り替え、黒豚銘柄豚の生産に着手した。普及には「とんくろー研究会」を組織し、後進の育成等にリーダーシップを発揮している。

当該グループは県下で 10 戸からなり、年間出荷頭数は約 6,000 頭程度であるが、さらに拡大を図る意向である。

#### ○研究会員黒豚生産の推移

| 年度   | 13      | 14      | 15      | 16      | 17      |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 出荷頭数 | 3,000 頭 | 4,000 頭 | 5,000 頭 | 5,500 頭 | 6,000 頭 |

#### (2) トレースバックの取り組み

出荷にあたっては、生産豚が流通・消費の中で認知されるよう日本養豚協会の品種証明を 1 頭毎に添付し、と畜場、加工施設、販売店までついていくシステムを取り入れることにリーダーシップを発揮し、生産仲間である研究会員から高い評価を得ている。

### 3. 自然を原則とした家畜の飼養管理

飼養管理については、なるべく豚を自然に近い形で飼いたいという考えから、ケージ飼いではなく平小屋にし、肥育前期では約 22 m<sup>2</sup>の豚房に 45 頭、肥育後期では 9 m<sup>2</sup>に 8 頭と密飼いにならないようにしている。また、繁殖豚には敷

料として自家堆肥と交換した稲ワラや麦ワラをふんだんに使い、豚にとって居心地の良い環境を与えている。

とくに、豚の飼養管理経験から、規模拡大を図る過程で、ウィンドレス豚舎を建設してきたが、豚にとって最良環境とするには自然を重視し、ウィンドレスを解放豚舎に改造することや、分娩房を除き豚房方式から群飼とするなど、飼育環境改善により生産性の向上が図られている。

#### 4. 「黒豚」の普及宣伝

生産された銘柄豚「黒豚」の消費者への普及として、群馬県庁前群馬会館食堂において提供し、黒豚料理の普及を推進している。

また、県下の販売は各地域のエコープ、スーパーから消費者へ供給する体制がとられ、本品の評価が高まりつつある。

#### 活動画像

|   |  |
|---|--|
|   |   |
| <p>ハウス型施設肉豚舎</p>  | <p>黒豚はじっくり飼育期間をかけ飼育</p>  |
|  |  |
| <p>稲わら・麦稈は敷料として活用</p>   | <p>縦型密閉式攪拌発酵施設には脱臭装置を付加し近隣への配慮</p>   |